

列島保全への課題

際立った存在の脊梁山脈

日本の国土の第3の特徴は(第1の特徴・複雑で長い海岸線を持つ細長い弓状列島、第2の特徴・4島に分かれ多くの島嶼部を持つ、は48号に詳述) 国土を1000〜3000mという標高の高い脊梁山脈が縦貫していることである。このことが、いくつもの重大で困難な自然条件を我々に突きつけている。図は、日本とフランスを等縮尺地図で示し、主要河川を描いたもの。わが国の脊梁山脈が際立った存在だと分かる。

一つは日本の河川はほとんどがこの脊梁山脈から発しているため、極めて短く急流河川になっていること、二つは国土を南北や東西に完全に分割し、日本海側と太平洋側を鉄道や道路によって結ぶことを、極めて困難にしていることが読みとれる。列島の中央に高い山脈があることから、都市間を連絡するには鉄道も道路も太平洋と日本海の両側に整備しなければならない。

雪国と非雪国に分割

三つはこの山脈の存在が日本国土を雪国と非雪国に分割していること。このように脊梁山脈は、国土の条件・人々の暮らしの条件を大きく規定している。シベリアからの寒流と対馬暖流がある限り、冬の日本列島に降雪があるのは当然だが、この寒風は脊梁山脈を越える間に、日本海側にほとんどすべての雪を落とし、乾燥した風となって太平洋側に吹いてくる。

険しく崩れやすく脆弱な国土

従ってこの山脈はわが国を、冬場には毎日続く曇天やジメジメした湿気と豪雪に悩み、大変な生活不便地になる積雪地域と、冬場でも晴天・乾燥の生活利便性が低下しない非積雪地域というまったく事情の異なる二つの地域に分割している。

不安定な地質

第4の特徴は地質が複雑で安定していないこと。わが国は国土面積の70%を山岳地帯が占めるため平野が少なく、国土を都市や耕地として広く使うことが難しい。さらに難儀なのが、この山岳地帯に風化した岩がどどめ置かれてい

ること。わが国の氷河期には、氷河は山脈の山頂部分にだけあったから、氷河が融解するときに、風化岩を山岳部に残していった。

軟弱地盤上の都市

第5の特徴は大都市のすべてが軟弱地盤上にあり、そこ

には洪水の危険があること。日本の大都市はすべて大河川の河口部に発達している。今から6000年ほど前「縄文海進」といわれる日本付近での海面上昇があり、今より3倍ほど海面が高く、海岸線がかなり内陸に及んでいた時代があった。その時代から今に至るまでの海岸線の低下に伴って、河川が押し出した土砂がこれらの地域に堆積し、扇状地や三角州がうまれ

脆弱な都市

そのことは、近代的な土地利用を行うために、工場や都市を造ったり橋を架けたりすると、軟弱地盤ゆえに、長大な基礎構造が必要という大きなハンディになっている。ヨ

ヨーロッパやアメリカの都市のほとんどが岩盤の上に存在していることと比べ、極めて厳しい条件になっている。ニューヨークもパリも岩盤の上に立地している。

河川が土砂を押し出す作用は今も続いており、土砂を押し出しながら流れている。し

碑の記憶①

震嘯災記念

青森県三沢市四目川

青森県三沢市四目川の金毘羅神社に高さ3・3mの「震嘯災記念」碑が建つ。表には「地震海鳴りほら津浪」と刻まれているが、裏面には昭和8年の津波の様子が詳しく刻まれている。以下はその要約である。

一瞬多数の生命を奪い財産を拉す。阿鼻叫喚の声随所に充ちその惨状言語に絶す事天聴に達し、かしこくも救恤の資を賜う。

昭和8年3月3日午前2時30分48秒、突如として強震あり。爾後半刻にして洋上遙か大音響を聞き、閃光

を誤らず。全国の同情また翁然として集まり、もつて罹災民をして能くその全きを得しめたるを喜ぶ。

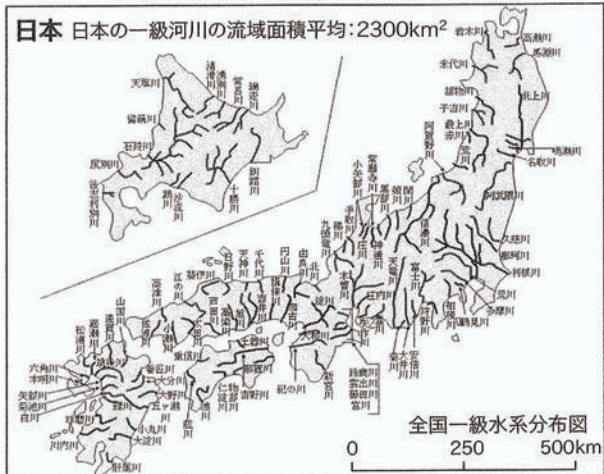
被害地住民は永くこの災禍を追想し、宜しくこれが警戒と予防に努むるの要有らん。(以下略)

参考：国交省東北地方整備局道路部HP「津波被害・津波石碑情報アーカイブ」

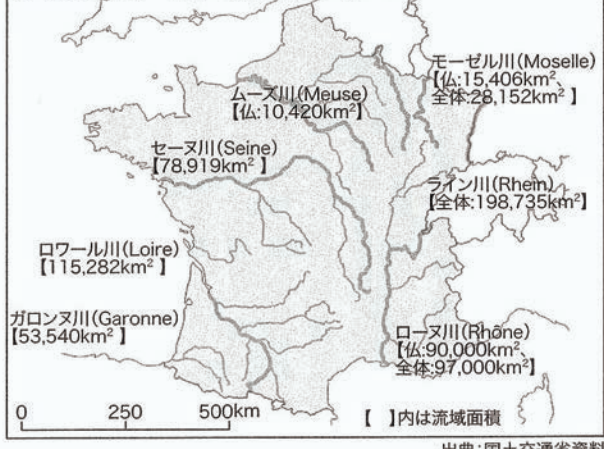


津波石碑情報アーカイブ

日本とフランスにおける河川の状況



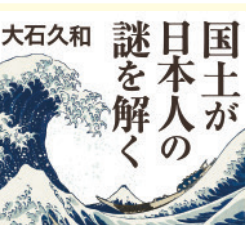
フランス ロワール川の流域面積：11万5000km²



国土が日本人の謎を解く

本書は、わが国の地理的条件・自然条件だけでなく、われわれ日本人は何を経験し、何を体験しなかったのか？ それはヨーロッパやアメリカ、中国の人々とはどう異なっているのか？ について学ぶことの出来る好著。

発行：産経新聞出版
定価：1300円＋税



大石久和
謎を解く
国土が日本人の